

平成28年度 市協議会 課題整理ワーキング報告

報告者： みやまえ基幹相談支援センター 野原
高津区役所高齢・障害課 若井

Plan 計画

1、年度当初に設定した取り組み内容

- (1) 各区協議会課題整理WGの進捗状況把握や
取り組み方について共有
- (2) 区協議会から提出を受けた課題の精査
- (3) 市協議会として協議検討すべき課題の解決方法検討
- (4) 「市協議会運営の手引きVer2」で設定した課題整理に関する
書式の使い勝手の確認。

Do 実施

2、課題整理ワーキング開催経過

○課題整理ワーキング開催日

第1回 平成28年6月15日

第2回 平成28年8月1日

第3回 平成28年10月3日

※上記検討経過については

第2回 市協議会全体会
にて報告済み

以降の開催日

第4回 平成28年12月5日

- ・各区協議会の課題整理進捗状況の確認
- ・書式の見直しに向けて事実整理

第5回 平成29年1月19日

- ・市協議会課題整理ワーキングで取り扱う課題の管理や市協議会企画運営会議への協議提案の流れについて再検証

第6回 平成29年2月6日

- ・各区課題管理一覧表の集約まとめ
- ・市協議会課題整理ワーキングの活動振り返り

第7回 平成29年3月6日

- ・第3回 市協議会全体会資料確認
- ・次年度の所掌事項（案）の確認

Check 評価・検証

3、ワーキング活動の振り返り及び評価①

年度当初に設定した取組み内容

（１）各区協議会課題整理ワーキングの進捗状況や取り組み方について共有。

- ・今年度の市協議会**短期目標**に設定した内容に基づき、課題整理の取組みプロセスを各区協議会の課題整理の進捗状況を確認しながら、課題整理を標準化していく働きかけを市協議会企画運営会議を通じて行い、各区協議会の課題整理が標準化した。

- ・各区課題管理一覧表の提出を受け、集約し、管理・把握を開始。

（平成29年1月～）

（２）区協議会から提出を受けた課題の精査

- ・各区協議会では、設定した地域課題に基づき、具体的活動を実行継続しているが市協議会への課題提出はなかった。

3、ワーキング活動の振り返り及び評価②

年度当初に設定した取組み内容

(3) 市協議会として協議検討すべき課題の解決方法検討。

※市協議会への課題提出：市協議会提出票受付状況

- ◎ 6月「災害時の相談支援」 提出機関：地域包括ケア推進室

- ◎ 10月「相談支援の質の向上」 提出機関：市協議会企画運営会議構成員

提出を受けた課題について市協議会企画運営会議で検討。

3、ワーキング活動の振り返り及び評価② ～市協議会提出票の検討状況～

◎災害時の相談支援

提出理由【全市で研修を行うことが必要と思われるもの】

市協議会連絡会の開催に繋がり、連絡会議のアンケート結果を分析し課題を具体的に検討していく為、市協議会企画運営会議内に災害ワーキングを立ち上げ課題整理を進めた。

◎相談支援の質の向上

提出理由【全市で研修を行うことが必要と思われるもの】

今年度の相談支援従事者初任者研修変更に伴い、ミスポジションや5ピクチャーズに関する研修開催に関する課題提出。提出のプロセスやルートについて更なる精査が必要となり内容の再整理を提出した市協議会企画運営会議構成員を中心に進めていくことになった。

3、ワーキング活動の振り返り及び評価③

年度当初に設定した取組み内容

(4) 「市協議会運営の手引き Ver2」で設定した課題整理に関する書式の使い勝手の確認。

- ・ 課題提出票の使い勝手や、その後の課題管理のしやすさも考慮に入れた書式一部修正の検討を継続している。
- ・ 個別の課題提出が少ない現状については、書式の見直しだけでなく各区協議会の活動の中で、相談支援専門員や区役所職員等が丁寧な聞き取りを行う方法も付帯していくことが必要である。

3、ワーキング活動の振り返り及び評価④

その他

- ・ 各区協議会課題管理一覧表の提出を受け、管理・把握を開始した。提出された課題を分類していくと以下の傾向が見えてきた。
※初期分類の速報。今後詳細な分析を進めていく。

- | | | |
|--------------------|-----------|-------------|
| ①「相談支援」 | ②「権利擁護」 | ③「福祉サービス全般」 |
| ④「地域移行・定着支援」 | ⑤「情報」 | ⑥「連携・つながり」 |
| ⑦「医療」 | ⑧「防災（災害）」 | ⑨「社会資源」 |
| ⑩「取扱いに更なる精査が必要な課題」 | | |

4、次年度の取り組みについて

- **市協議会として協議すべき課題の取扱いの検討や提出された課題の整理。**
市協議会提出票の提出に基づく、課題取扱いの検討を行い、市協議会企画運営会議へ報告していく。（提出内容によっては、市協議会企画運営会議で直接検討を行う。）
- **各区協議会から提出を受けた課題管理一覧表の管理・把握。**
課題傾向を分析し、判明した事柄を各区協議会活動に還元していく。
- **共通書式の修正**
継続して検討を行い、修正書式の使い勝手を効果測定していく。
同時に、どのような配慮や聞き取り方法があると、個別課題提出が出しやすくなるのか？各区協議会の活動報告を確認し検討していく。
- **その他**
市協議会企画運営会議で検討が必要となる課題の具体的な検討を行う。

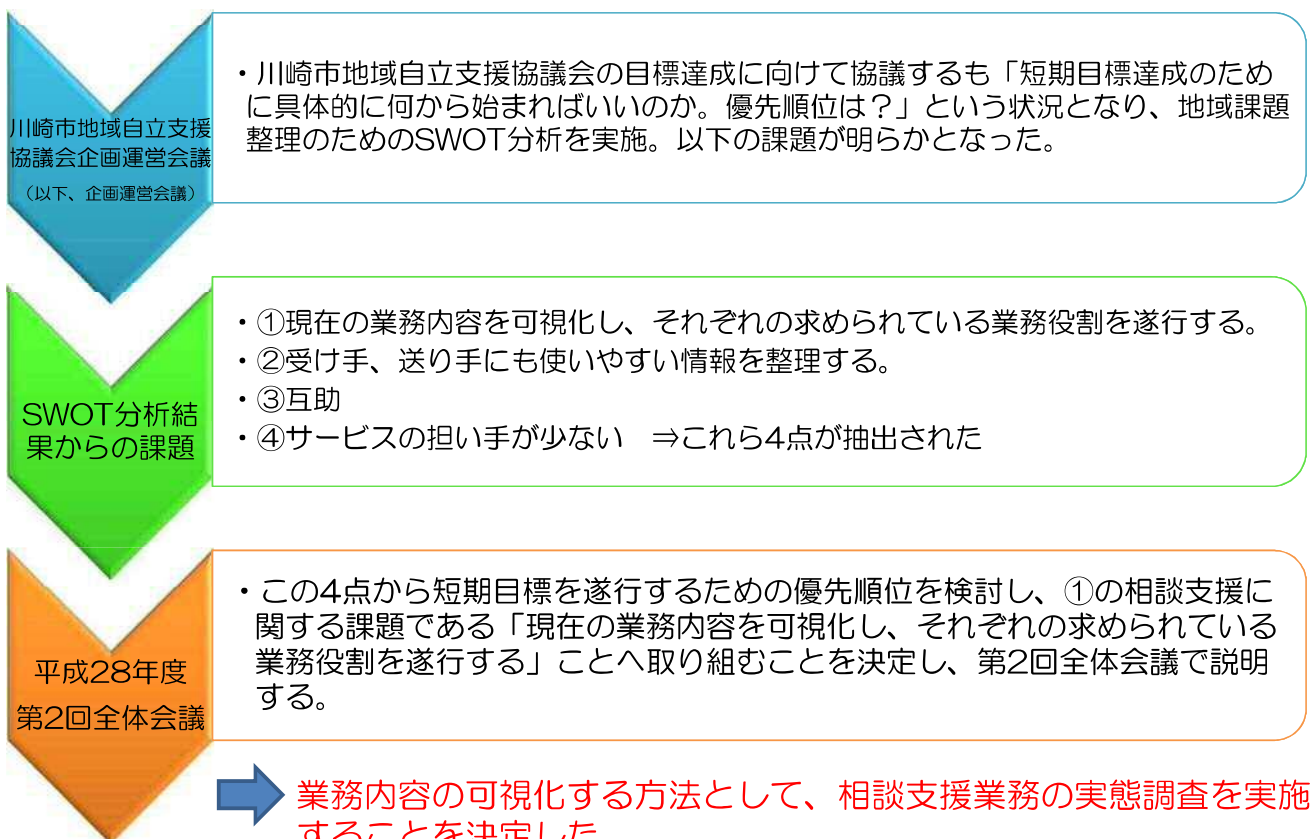
相談支援ワーキング報告



平成29年3月16日(木)

川崎市地域自立支援協議会相談支援ワーキング

～第2回川崎市地域自立支援協議会全体会議（以下、全体会議）までの振り返り～



～第2回全体会議のご意見～

【第2回全体会議で委員の皆様より】

- 相談支援全体の課題が見えない。
- 昨年度までの取り組みはどうするのか？
- 質の向上をどう考えるのか？
- 業務管理的であり、利用者側の視点を入れてほしい。

とのご意見をいただきました。



SWOT分析や地域課題の可視化する意味がうまく伝わらなかったのかもしれない。昨年度までのよい取り組みがなぜかうまく反映できなかったことについてPDCAサイクルにしたがって、分析し直した作業がSWOT分析だったのだけど・・・



～第2回全体会議報告以降の動き その1～

そこで、相談支援ワーキングとして

委員の皆様から頂いたご意見について、企画運営会議で共有し、相談支援全体の課題を整理するためにも、相談支援ワーキング、課題整理ワーキングと一緒に今後取り組み、その結果を双方へ反映させていくことを確認しました。

そのための作業として、まず現状を知るために基幹相談支援センターの業務を見直し、基幹相談支援センターとしての役割を遂行しやすい環境づくりが、利用者のための権利擁護や視点にたった相談支援の質への向上へと繋がっていくということを共通認識しました。

そこで、ミラクルQを使って、業務を可視化してみると・・・



～第2回全体会議報告以降の動き その2～

【ミラクルQをする目的】

【SWOT分析からの課題】

- ・現在の業務内容を可視化し、それぞれの求められている業務役割を遂行する。

ミラクルQを利用して、基幹相談支援センター業務の可視化をすると・・・。
なんと！！

【ミラクルQの結果】

- ・ 個別支援に係る業務が約6割強
- ・ 地域支援に係る業務が約2割弱
- ・ 事業運営管理に係る業務が約2割



(平成28年4月から9月までの6か月間の実績
「障害者相談支援業務サポートシステム「ミラクルQ」より」)



個別支援に比重が高く、地域支援に係る業務の比重が低いことが判明！



～第2回全体会議報告以降の動き その3～

ミラクルQの結果を踏まえて、企画運営会議で検討

入力の誤差を考慮しても「個別支援」が多いのでは・・・？



地域支援を増やし、基幹相談支援センターの役割を果たすことが必要



計画相談支援の拡大が課題（川崎市全体の課題）

相談支援ワーキングと課題整理ワーキングで川崎市全体の課題を共有するって話はどうなった？



計画相談支援について、利用者などから意見とかあるの？

課題整理ワーキングの方では、相談支援の問題はないの？

～第2回全体会議報告以降の動き その4～

企画運営会議で検討した結果

各区協議会課題管理一覧表を企画運営会議で集約することとした。



相談支援ワーキング
と課題整理ワーキング
での協働！

課題整理ワーキングで、課題の管理・把握を開始



課題整理ワーキングで、出てきた課題の中で
相談支援に関わる課題をさらに抽出することに！！



～第2回全体会議報告以降の動き その5～

課題整理ワーキング
の結果から

○各区協議会から提出された課題管理一覧表（以下、課題管理一覧表）の内容分類について課題整理ワーキングにて、提出された課題の内容について分類すると、以下の傾向が判明しました。※詳細は課題整理ワーキング報告資料参照。

提出された課題の内容分類（抜粋）

「相談支援に関連する課題」

1

「情報」

2

「連携・つながり」

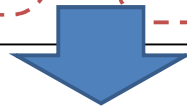
3

「福祉サービス全般」

4

SWOT分析

- 1、現在の業務内容を可視化し、それぞれの求められている業務役割を遂行する。
- 2、受け手、送り手にも使いやすい情報を整理する。
- 3、互助
- 4、サービスの担い手が少ない。



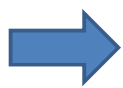
課題整理ワーキングの分析結果とSWOT分析から出てきた
市協議会の課題との整合性を確認。



相談支援ワーキングとして
一歩踏み込んで・・・

課題管理一覧表を踏まえて相談支援全体の課題を整理した結果

- ライフステージの変化の際（児童期から成人期、成人期から介護保険への移行期）に支援が途切れたり、支援体制が変わることで混乱を招くことがある。
- 問題を抱えたまま、相談先が無い方が存在する。
- セルフプランの数が多い。また、指定特定相談支援事業所が少ない。計画相談支援の拡大に向けた課題を整理する必要がある。
- 計画相談支援の意義及び目的が浸透しておらず、メリットが伝わっていない。
- 相談支援ガイドブックの改訂が必要。
- 相談支援の質の向上のためには、人材育成が必要。国において相談支援従事者研修の見直しが予定されていることをふまえ、川崎市における人材育成に関する検討が必要。
・・・・・・・・等



相談支援の課題が明確化（SWOT分析と一致した）
相談支援体制の問題、相談支援の質の問題が判明その原因の
ひとつに基幹相談センターの業務整理が必要

これらの検討結果から～



川崎市地域自立支援協議会の目標達成に向けて協議するも「短期目標達成のために具体的に何から始めればいいのか。優先順位は？」ってことで検討してきた結果。

相談支援のガイドブックや川崎市地域自立支援協議会の運営の手引きがうまく活用されていなかったり、浸透しない理由は、それぞれの機関の役割がしっかりと機能していなかったということかしら。

それによって、利用者にとって必要な情報が届いていない状況が発生していたみたい。また、しっかりとした情報を届けるためには、相談員の質も問われるわね。

この課題を解決することが相談支援部会の役割だということと判明。



整理した結果を受けて



相談支援を充実させていくためには、

- ①川崎市全体の相談支援体制機能等の課題への取り組み
- ②相談支援の質を上げるための教育・研修体制機能への取り組みの両輪が必要となる。

○計画相談支援の拡大に加え、相談支援に関する課題が多岐に渡っていることを踏まえ、相談支援の充実に向けて取り組む必要がある



相談支援部会の設置が必要

○相談支援の質の向上や人材育成は、全市の課題であり、急務である。国の動向を踏まえつつ、相談支援の質の向上に向けた人材育成が必要。



人材育成部会の設置が必要

平成29年度の方向性と目的

1. 相談支援部会の設置

目的

これまでの取り組み経過、川崎市の状況（地域包括ケアの推進等）及び国の動向（研修の見直しや「地域共生社会」の実現）等を踏まえ、市単位の取り組みとしての優先度が高いと考えられる計画相談支援の拡大、相談支援ガイドブックの改定及びその他各種課題に関する検討を行うことで相談支援の量的な拡大を図り、相談支援の充実に資することを目的とする。

2. 人材育成部会の設置

目的

これまでの取り組み経過、川崎市の状況及び国の動向等を踏まえ、川崎市における相談支援専門員の人材育成のあり方や川崎市独自の相談支援従事者研修に関する検討を通して相談支援の質の向上を図り、相談支援の充実に資することを目的とする。



ご清聴ありがとうございました。



平成28年度 川崎市地域自立支援協議会災害ワーキング

報告者 : さいわい基幹相談支援センター 小川
宮前区役所保健福祉センター 濱福

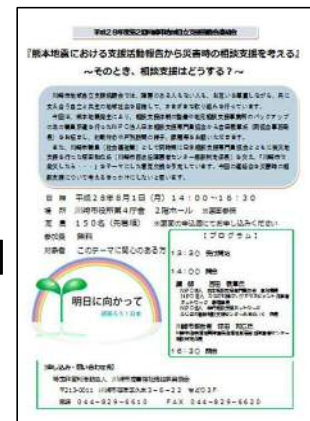
1

災害ワーキング立ち上げの経緯①

平成28年8月1日

第2回 川崎市地域自立支援協議会連絡会

『熊本地震における支援活動報告から災害時の
相談支援を考える ～そのとき、相談支援はどうする～』



開催目的

- ・熊本地震発災直後から被災地支援を行っている相談支援専門員を招き、実際の支援活動の様子や課題等を聴き、災害時の相談支援について考える契機とする。
- ・過去にシンポジウム等実施しているが、仕組み作りにまで至っていない。意識付けやきっかけとしたい。

(企画実施: 連絡会ワーキング)

2

災害ワーキング立ち上げの経緯②

○アンケートで挙げられた意見(以下抜粋)

- ・相談支援はもとより、**100%でなくとも支援としての準備が大切**だと思いました。私たち支援者も被災者になりうるので、どれだけの支援ができるのか疑問です。
- ・日常的にある困り感を知っておくことで初動が変わることで日々の連携の大切さを改めて学びました。**基幹支援センターの在り方を考えさせられました**。より地域への取り組みができるように色々変えなければならない所も多いなと思いました。
- ・前回3.11の時も2次避難所のことについて、親御さんからご質問があったが、それから**川崎が何も進んでいない**感じを正直に言っていただいてよかった。
- ・今後起こりうると考えられる災害について、川崎市としての問題の抽出からの課題を見つめ、**考える機会を持た**た。よって普段から取り組みも含めそれぞれの立場役割を踏まえ、協働できる体制の必要性を改めて感じた。
- ・熊本市と比較すると、**相談支援事業所数だけでは恵まれているので、もっとできることがあるのでは**…と思いました。万全の体制は難しくても意識できる機会作りは必要だと思いました。
- ・熊本での経験を**川崎でどう生かすか、考える機会**になった。
- ・川崎が実際に被災した場合、**何ができるのかまだ分からないことだらけ**だと改めて実感できました。
- ・二次避難所の課題、実際どう動くか不安になる部分も多いですが、でも**課題の洗い出しにはなった**と思います。

3

災害ワーキング立ち上げの経緯③

平成28年10月

・連絡会ワーキング

アンケートで挙げられた意見を受けて、今後川崎市として防災や災害時の支援について考えていく必要があると判断。アンケート意見を踏まえ、SWOT分析を用い、課題整理をした。



・10月市協議会企画運営会議

相談支援としてできることから取り組んでいくため、そのリスト作成とモニタリングを行うまでを整理する災害ワーキングの設置を提案し、承認を得た。

(12月に担当を決定)



4

災害ワーキングでの検討開始

平成29年1月

○連絡会ワーキングで実施したSWOT分析結果を活用して、課題の整理を実施。



【見えてきた課題】

- ・災害に対する備えが十分にできていない。
- ・災害時における相談支援センター同士の連絡手段・体制等が確立されておらず、共有できてない。
- ・防災のことが普段の個別支援に生かされていない。
- ・相談支援センター同士が顔を合わせる機会が多いので、情報を周知・共有・連携することができるが、十分に活かされてない。
- ・マップ等の材料はあるが、活用できてない。



5

まずは

《市協議会提案》 障害者相談支援センターとして今すぐできること

【相談支援の枠組みの中でできることをリスト化して実行する】



- ①川崎市防災情報ポータルサイトにて、発災前、災害時に活用できる情報を各障害者相談支援センターで把握、確認する。
 - ②各区防災マップに登録・契約している利用者を落とし込み、可視化して、センター毎の防災マップを作成する。各区防災マップには、避難所や応急給水拠点に記載されているので、それ以外の災害リスクについては、津波、洪水、土砂災害ハザードマップを活用し、把握する。またそれを個別支援に活かす。
 - ③登録・契約している利用者に対して、災害時要援護者支援制度の案内を行う（新規登録・契約者は必ず案内する）。後々、民生委員と一緒に訪問する等、状況の把握を行う。
 - ④備蓄品・非常持出品（一般的な物品＋その方に必要な物[災害時緊急連絡カード、お薬手帳、発電機等）の準備を利用者に促し災害時の備えの支援行う。
 - ⑤②～④の情報を集約した名簿を作成する。
 - ⑥障害者相談支援センター内で緊急時の職員連絡体制を確認しておく。緊急連絡先の共有。
- (③④は災害時要援護者の貯めの防災行動ガイドを活用)

6

《今後のスケジュール》

○平成29年4月～

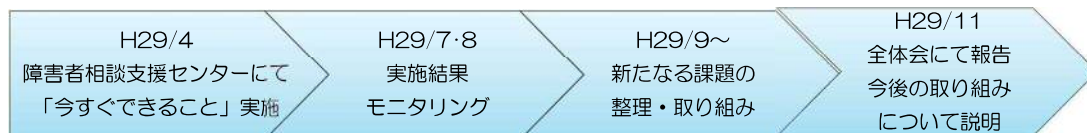
『今すぐできること』リストの障害者支援センター(28ヶ所)への周知。

各センターで実際に取り組んでもらい、3ヶ月後にモニタリング。進捗状況などを確

認し、リストの見直し等を行う。→ 指定特定相談支援事業所にも広げていけるか？

今すぐ取り組めることがある一方、協議会の枠組みだけで考えていくのは難しい部分

もあり、他の課題を整理しつつ、災害ワーキングの方向性と部会の設置の可能性を確認していく



- 防災への取り組みは市全体の課題となってくるため、市地域自立支援協議会(障害分野)での取り組みだけでは解決できない問題があるので、市地域自立支援協議会として、あるべき姿をまとめる必要がある。
- 災害における対応マニュアルの作成が必要か。法人独自の災害時対応もあり、その事を考慮する必要あり。マニュアル等の作成により、相談支援専門員としての動きができる。
- 防災の他の会議(区役所内や地域で行われている会議)の内容も把握する必要あり、同じことの協議をしても無駄になってしまう。
- 個人情報の課題有るが、相談支援事業所同士の情報共有も課題か等など